

各位

株式会社アルプス技研
I R ・ 広 報 室

平成20年度 新年社長 年頭挨拶

株式会社アルプス技研（本社；神奈川県相模原市西橋本5-4-12、社長；池松邦彦）では、本年1月7日に年頭式を行いました。式におきまして、代表取締役社長池松邦彦が社員向けに年頭挨拶をいたしましたので、要旨をお知らせいたします。

記

「新年を迎えて」

皆さん 明けましておめでとうございます。

さて、今年は当社の創業40周年を迎える年であり、第9次5ヵ年計画の初年度にもなります。新しいテーマである「次代を創造するリーディングカンパニーへの飛躍」に向けてグループの総合力を発揮していきたいと思いを。当社を取り巻く外部環境は今後ますます変化や不確実性を増していくものと思われま。この激動の時代を乗り切るためにも、第9次5ヵ年計画の「顧客との強固かつ広範なパートナーシップの構築」「ライフキャリアプランによる高度技術者の育成」「次代の組織経営力の確立」の3つの目標に向けて具体的な取組みを着実に進めてまいりたいと思いを。

特に、これからは社員全員の総合力をより一層発揮できる組織経営力を確立することが重要になってきます。組織経営力とはその持ち場にいる一人ひとりの社員の力の総和になります。会社全体の大きな目的の中で社員一人ひとりが自らの役割を認識して行動できること、お互いの人間性を尊重しあえること、そしてこの2つのことによつて社員の能力がさらに向上し、より強固なチームワークが発揮され、価値の創造がなされていくこと、そのような組織経営力を確立していきたいと思いを。

「径寸（けいすん）十枚これ国宝に非ず、一隅（いちぐう）を照らすこれ即ち国宝なり」

比叡山を開いた伝教大師・最澄（さいちょう）の言葉に、「一隅（いちぐう）を照らす」という言葉があります。

この最澄の言葉は、御仏（みほとけ）の教えを実行して生活していると何不自由なく暮らすことができるが、自己のことばかりを考えて生活していると、他人への思いやりの心、御仏を信頼する心を忘れ、正しい人間生活を送ることができないという意味と私は理解しています。「径寸」とは金銀財宝のことで、「一隅」とは今私たちがいるその場所のことです。お金や財宝は国の宝ではなく、家庭や職場など、自分自身が置かれたその持ち場で、精一杯努力し、明るく光り輝くことのできる人こそ、何物にも代えがたい貴い国の宝であるという意味だと思いを。

一人ひとりがそれぞれの持ち場・立場で全力を尽くすことによつて、社会全体が明るく照らされていく。自分のためばかりではなく、人の幸せ、社会の幸せを求めていくことができ、「人の心の痛みがわかる」「人の喜びが素直に喜べる」「人に対して優しさや思いやりをもてる」こうした心の豊かな人が国の宝であるということだと思いを。

これはアルプス技研の経営理念である「Heart to Heart」と非常に共通するものがあるのではないのでしょうか。

社員の皆さん一人ひとりが、会社だけではなく社会にとつても「一隅を照らす」存在になれるように、またそのような「一隅を照らす」社員を一層大切にすることができるように、私もこの一年精一杯努力していきたいと思いを。

最後になりますが、今年一年の皆様のご多幸とご活躍をお祈りして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

以上